

「小規模校の存続と地域の持続可能性」成果報告書

1. 概要

■大学名

国立大学法人 島根大学

■教育研究活動

区分：その他（地域コミュニティの持続）

テーマ：小規模校の存続と地域の持続可能性

■連携した市町

島根県邑南町

■連携した企業，団体等

阿須那公民館，口羽公民館日貫地区自治協議会

■参加学生

教育学部	4年	3名
	3年	3名
	2年	3名
	1年	16名
	合計	25名

2. 活動の目的

広島広域都市圏を構成する邑南町では、人口減少と少子化により小中学校の小規模化が進行しており、そのあり方が問われている。とりわけ、地区単位で存在している小学校は、地域においてはなくてはならない存在であり、今後は小学校と地区が一体となって地域を持続させる必要がある。また、邑南町の中学校は旧町村範囲で設置されており、旧村範囲で設置されている小学校とともに、地域の持続に貢献している。そこで、本学教育学部学生が小中学校と地域の双方に関わることにより、学校の存続と持続可能な地域づくりに関する具体的方策を模索する。その結果、得られた知見に基づき、今後における小中学校と地域のあるべき姿を明らかにすることを目的とする。

3 活動の内容

(1) アンケート調査

邑南町全集落を対象とした地域の実態、小中学校による地域との関わり、住民による小中学校に対する意識等について、アンケート調査を実施した。アンケートは、6月に邑南町役場を通じて邑南町内全214集落に対して配布し、7月7日（月）を締切として郵送により回収した。その結果、145集落から回答があり、回答率は67.8%であった。回答の結果についてはデータ入力を行い、図表化等を行った。

調査の結果、学校と地域との結びつきが弱体化する傾向にあることが確認された。その要因として、担い手の減少や高齢化により、学校と地域との関係が希薄化している点が挙げられた。一方で、学校と地域との協働の必要性については多くの集落において認識されており、学校・地域組織・公民館が連携して対応する必要性が改めて見出された。

なお、アンケート調査の結果については、邑南町における学校配置等に関する教育政策を検討する基礎資料として活用される予定である。

(2) 地域資源発掘フィールドワーク

「人文地理学概説 I」の受講生 15 名が、10 月 26 日（日）に邑南町羽須美地域へ訪問し、地域資源発掘のフィールドワークを行った。当日は、邑南町役場の案内により邑南町内の主要な地域資源について徒歩で巡った。また、午後は羽須美地域の阿須那地区及び口羽地区における地域の持続に対する取り組みに関するレクチャーを受けるとともに、現地の諸施設を見学し、住民と意見交換を行った。



(3) 学生による羽須美地域滞在

学生 1 名が 8 月 25 日（月）から 9 月 23 日（火・祝）に羽須美地域に滞在し、地域づくりの実態把握、学校体験、保護者世帯訪問調査を実施した。期間中、平日は羽須美中学校に赴き、授業見学、学習支援、校務体験、部活指導、行事参加などを行った。また、平日夜間及び休日は、保護者世帯に対するヒアリング調査を実施するとともに、地域の諸行事に参加し、地域実態の把握に努めた。



(4) 報告会の開催

2月21日（土）に邑南町日貫地区で報告会を実施し、地域住民および学校関係者との意見交換を行った。島根大学より5名の報告者（授業受講者）と10名の学生が出席し、地域住民・邑南町役場職員が約40名参加した。また、邑南町長も聴講された。

○プログラム 司会：藤井清花（教育学部社会科教育専攻3年）

10：00 開会挨拶 邑南町

10：05 主旨説明 作野広和（教育学部社会科教育専攻教授）

10：15 研究報告 泉 海斗（教育学部社会科教育専攻4年）「小規模校の存続と地域の持続可能性」

10：45 学生報告 「人文地理学概説Ⅰ」受講生（教育学部社会科教育専攻1年） 1人10分

(1) 角田実咲「棚田でつなぐ人の心ー羽須美地域の棚田が持つ可能性ー」

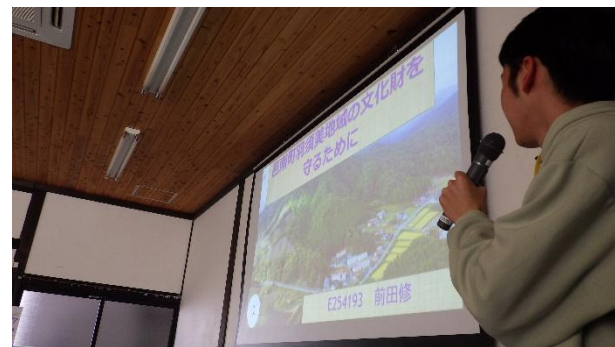
(2) 小野瑞樹「羽須美地域の街並みを生かした商業振興」

(3) 前田 修「邑南町羽須美地域の文化財を守るために」

(4) 西田圭吾「はすみ振興会・ロ羽をてごおする会で邑南町をさらに魅力化する」

11：25 コメント 小田博之さん

11：30 閉会挨拶 阿須那公民館 館長



4 活動の効果

(1) 学生によるコミュニケーション能力の深化

学生が現地に訪問・現地滞在することで、地域実態を把握するスキルや地域・学校関係者とのコミュニケーションを深化させることができた。

(2) 学生による地域課題発見・地域資源活用能力の育成

本事業により、地域及び学校に関する課題を事例的に把握することで、邑南町内の全地区（12 地区）において水平展開するための基礎資料の作成や、地域住民に対する向き合い方に関するノウハウが蓄積された。とりわけ、羽須美地域では1か月にわたる学生滞在や、報告会の開催により、阿須那地区・口羽地区の双方に深く関わることができた。

(3) 地域住民の意識変革

地域住民及び学校関係者が学生と対応・交流することで、地元住民とは異なる価値観に接することができ、ローカル・イノベーションを起こす素地が形成された。羽須美地域報告会には町長をはじめ、合計 40 名の町民・学生が集うことにより、相互の交流も生まれ、地域住民の意識変革につながったと考える。

【事業効果総括】

学生が邑南町を訪問・滞在することにより、地域住民や学校関係者との接し方を学ぶとともに、地域課題を発見し、解決しようとする力を育成することができた。また、地域活動等に参画することにより、自らが地域課題解決の主体者として考え、行動することができる人材を育成することができた。さらに、学生と地域住民が交流や協働活動を行ったことにより、相互の信頼関係が醸成されるとともに、地域住民の意識変革にも寄与したと考える。

5 事業を終えての考察

(1) 事業の意義

学生が長期（約1か月）にわたって羽須美地域に滞在することで、羽須美中学校・阿須那小学校を中心とした学校体験や、小規模校の実態を体感的に把握することができた。また、滞在期間中には地域活動に参画することにより、地域住民とのコミュニケーションが密になり、住民の思いや願いを把握することができた。これにより、対象地域において学生及び大学研究室に対する信頼を獲得することで、研究成果を地域づくりに対し確実に活かせる素地ができたと考える。

また、教育学部として本事業を行うことにより、学校教育と地域づくりの双方に対して多くの知見を蓄積できたと考える。とりわけ、コミュニティスクールを基軸とする「学校を核とした地域づくり」とともに、地域学校協働活動によるスクールコミュニティの実態を把握できたことは大きな収穫であった。現地においては、学校の小規模化とともに地域の縮小・高齢化により、従来は維持できていた学校との協働活動が徐々に困難になっている現実を直視することができた。

(2) 事業成果の普及

邑南町においては、教育のあり方や学校配置のあり方を検討中である。邑南町において本事業を実施したことにより、邑南町の教育政策や地域政策に関する基礎資料を提供することができた。今後は、邑南町における小中学校の適正配置、公民館のあり方、地域運営組織の設立等において、大いに活用されるものと期待される。

(3) 課題

邑南町は、公共交通機関を利用して訪問することが極めて困難であるため、学生たちのみで自主的に邑南町に訪問することは難しい。そのため、活動の継続性をどう担保するのが大きな課題となる。可能であれば、本事業を来年度も申請することで事業費を確保し、学生の訪問や滞在の経費に充てたいと考える。来年度、同様の事業が採択された場合、3年間の事業を完結させる予定である。